

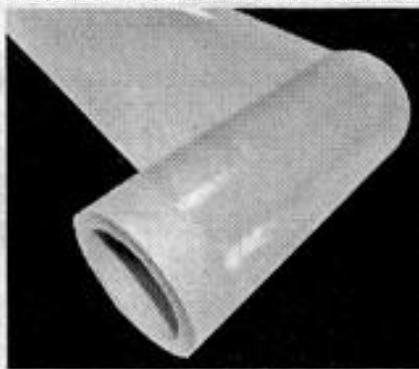
日本紙管業  
日工

## 余尺ロス軽減に貢献

水で粘着性発揮するコア拡販へ

日本紙管工業(大阪市旭区、☎06・6952・0674)は、フィルムや紙の巻き取りで生じる段差やしわを解消する紙管「タックハイコアー」の提案を進めている。表面の特殊なコーティングによって両面テープなしで巻き取りができる画期的なアイデア品だ。

見た目は一般的な紙管



見た目は一般的な紙管と変わらず、表面が平滑なタイプ、重ね突合わせのタイプのクレードで販売するほか、防塵紙管など各種技術との組み合わせも可能となっている。なお、同製品は特許を取得済み。従来ならば、両面テープを使用して紙管とフィルムを貼り付けていた。両面テープは20センチほどの薄いものが主流だが、巻き取りで大きな段差痕が生じる。一方で「タックハイコアー」ならばフィルムなど製品同士の段差だけに軽減できる。

ないため剥離紙の廃棄もなくなり、異物混入や廃棄物分別のリスクも低減する。

コーティング剤のブレンドは紙やフィルム材質を問わず使用できるほか、四季のある日本において湿気や乾燥で品質が変わらないように改良を重ねてきた。梱包時や保管時に密着してもお互いが干渉することはない。すでにフィルムメーカーなどで導入試験を行っており、巻き取り後のスレなども生じないと実証もされた。まずは既存の取引先などから販路を広げていく。

同社は今年も新商品を出し、他社との差別化や機能性の充実を図る考え。

段差痕の軽減により、しわを見込んだ余尺などロスを軽減させることができる。さらに両面テープを使用し